

## (7) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに持ち直しているものの、一部に弱さがみられる。さらに、令和6年能登半島地震の影響もみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいで推移していたものの、令和6年能登半島地震による生産への影響がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しに足踏みがみられ、令和6年能登半島地震の影響もみられる。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)。

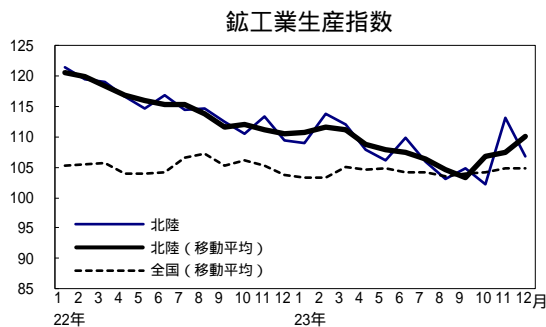
### 前回からの主要変更点

	前回(令和5年11月)	今回(令和6年2月)
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直しているものの、一部に弱さがみられる。さらに、令和6年能登半島地震の影響もみられる
鉱工業生産	おおむね横ばい	おおむね横ばいで推移していたものの、令和6年能登半島地震による生産への影響がみられる
個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直しに足踏みがみられ、令和6年能登半島地震の影響もみられる

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産はおおむね横ばいで推移していたものの、令和6年能登半島地震による生産への影響がみられる。

10 - 12月期の鉱工業生産は、前期比2.6%増となった。月別にみると、10月は化学が減少したこと等により前月比2.6%減、11月は生産用機械が増加したこと等により同10.8%増、12月は生産用機械が減少したこと等により同5.7%減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
化学	15.4	1.7	0.9	10.9	27.6	13.8
電子部品・デバイス	14.0	5.6	5.3	7.7	4.1	9.1
生産用機械	12.3	2.2	8.6	9.4	35.6	20.3
金属製品	9.1	7.9	1.7	0.2	1.7	3.0
繊維	5.8	1.4	3.2	0.3	2.6	2.1
鉱工業	100.0	3.0	2.6	2.6	10.8	5.7

(備考) 1. 2020年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。  
2. 全国及び北陸の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。  
2. 10 - 12月期、12月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

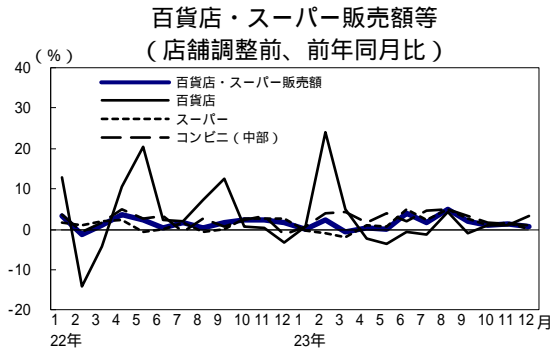
個人消費は持ち直しに足踏みがみられ、令和6年能登半島地震の影響もみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

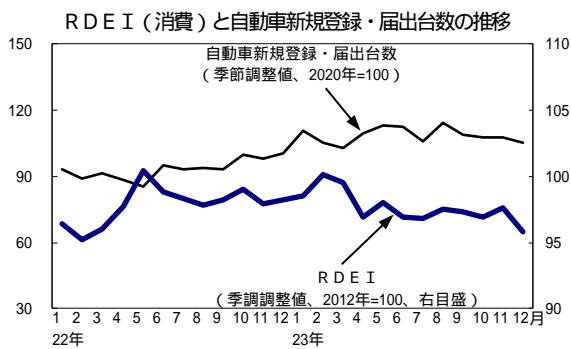
10 - 12 月期は前期比 0.4% 減となった。月別にみると、10 月は前月比 0.4% 減、11 月は同 0.7% 増、12 月は同 1.9% 減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12 月期は前年同期比 1.0% 増となった。月別にみると、10 月は前年同月比 1.1% 増、11 月は同 1.4% 増、12 月は同 0.6% 増となった。



	2023年10-12月	2023年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.4	0.4	0.7	1.9
百貨店・スーパー(*2)	1.0	1.1	1.4	0.6
百貨店(*2)	1.8	0.9	0.9	3.2
スーパー(*2)	0.8	1.1	1.5	0.0
コンビニ(*2)	1.3	1.7	1.2	1.1
乗用車(*3)	8.8	11.0	10.3	4.7
(季節調整値)(*3)	2.3	0.7	0.0	2.7



(備考) 1. 季節調整前(前期)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

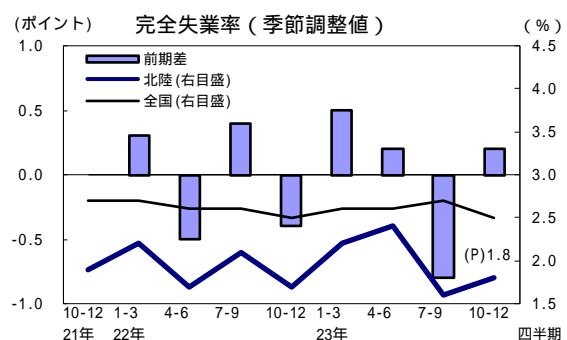
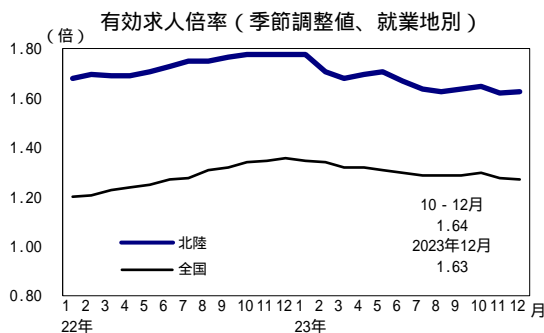
コンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

## 3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある (P9 参照)。一般労働者の定期給与、パート労働者の時給は上昇している (P10 参照)。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 1. 内閣府にて季節調整。

2. 10 - 12 月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和6年1月調査）景気判断理由の概要

7. 北陸

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向関連	▲	・能登半島地震で観光客が激減し、宴会部門も自粛でほぼキャンセルになり、新規予約も入らなくなっている（都市型ホテル）。
		□	・コロナ禍からの回復は堅調に推移している。当初は元日に起きた能登半島地震の影響によりマインドが低下していたが、後半にかけてはほとんど回復している。今後はニーズの変化などに注目する必要がある（その他小売 [ショッピングセンター]）。
		×	・能登半島地震発生後、消費マインドが大幅に低下している。市内から国内及び外国人観光客が激減し、街中の車や歩行者の通行量が目に見えて減っている。また、断水が続いている被災地のサテライトショップは休業が続いている。1月の店全体の売上は前年比7%減少の見込みである（百貨店）。
	企業動向関連	□	・プラント関連で受注回復の動きがある。一方、卸売業では値上げにより売上を維持するものの、販売数量の減少がみられる。小売やインバウンド関連は横ばいである（金融業）。
		▲	・元日の能登半島地震で北陸の景気は減退している。復興に向けた需要は高まるが、取引先や従業員も被害を受けているため、通常稼働はなかなかできない状況である（輸送業）。
雇用関連	○	・能登半島地震からの復興に向けて、建築資材や自動車関連製品の受注量が増加している（プラスチック製品製造業）。	
	□	・やや求人数が増えているが、年度や季節変動による急募に起因した微増である（人材派遣会社）。	
その他の特徴コメント	▲	・能登半島地震の影響で、稼働できない派遣先企業からの休業や派遣契約解除が少し出ている（人材派遣会社）。	
その他の特徴コメント			▲：能登半島地震からの避難や断水などの影響で、制限のある生活を余儀なくされており、最低限の買物に抑えている状況である（スーパー）。 ×：能登半島地震の直接的な被害はほとんどなかったが、予約のキャンセルや自粛ムードにより、客足は止まっている（一般レストラン）。
先行き	家計動向関連	□	・身近な温泉地が壊滅的な打撃を受けているため、2～3か月では戻らないと考える（旅行代理店）。
		○	・北陸新幹線の敦賀延伸を機に北陸を観光しようという気運が高まるとみている（コンビニ）。
		▲	・まずは復興に向けて取り組み、住宅計画は延期や保留などが出ると予想している（住宅販売会社）。
	企業動向関連	○	・震災復興による需要の増加、北陸新幹線延伸による経済効果に期待している（プラスチック製品製造業）。
		▲	・能登半島地震により生産設備に被害を受けた企業が多く、その影響の詳細がまだみえないことから、先行きの不透明感が更に増している（繊維工業）。
雇用関連	□	・コロナ禍以後の行事復活に期待していたが、能登半島地震が発生したため、再び行事の中止や延期などが増えて景気が停滞しないか案じている。景気のためにも震災復興事業を早く進めてもらいたい（民間職業紹介機関）。	
その他の特徴コメント			□：現在は復興に伴う需要が多少ある。一方、3月は例年インバウンドや国内観光客が増え始める時期だが、能登観光は厳しいため、北陸への入込客数が減ることを危惧している。宴会の自粛が長引けば地域全体が疲弊してしまう。復興にもつなげるため、過度な自粛はやめてほしい（都市型ホテル）。 ×：能登半島地震による自粛ムードがすぐに払拭できるとは考えられない。北陸応援割が始まる春以降に期待したい（商店街）。

(D I) 現状・先行き判断D I（北陸）の推移（季節調整値）

